

# 猿新聞

## 獣害対策は小手先ではダメ！

獣害対策は、野生動物が何故人間の生活エリアに出てくるのか？先ず、その要因を突き止めることがから始めなければなりません。

中山間地域では、高齢化や後継者不足などで耕作放棄地が増加し、地域の環境整備・管理が行き届かなくなり、下草の繁茂した林が多く、山が人間エリア近づいてきた状況で、野生動物が田畠へ容易に近づきやすく、また耕作放棄地が餌場となるなど、集落全体が野生動物にとって棲みやすい環境となっています。

また、中山間地域では、農家が個々に防護柵の設置などの被害対策を講じていますが、設置方法や管理のしかたが、集落間でバラツキがあり、広域的な効果が発揮できていません。地域ぐるみで、知識の共有を図り対策を講じなければ効果が発揮できません。

また、個々での対応では、コストや維持管理を個人が担うことになり、自ずから限られた田畠しか管理できず、十分な効果が発揮できていないのが現状です。獣害対策を成功させるには、集落全体を一つの圃場と考えて、個々の土地境界線にとらわれない効果的な獣害対策を講じるべきです。農業形態も大きく様変わりし、野生動物誘因の現状を考えるべきだと

編集・発行  
山村 準  
tel:0595-63-1725  
Email:  
jyun.y@asint.jp

『接種』原木の木口に混合種菌を4～5mmの厚さに塗り、その上に別の原木を隙間のないようサンポリ等で被覆する。10～15日で白く発菌してくるが、発菌しない場合は灌水して発菌を促すようにする。桟木を絶対動かないように注意。

『本伏せ』7月頃、直射日光の当たらない林内で伐採した柿の木からシカを絶対動かさないように注意。場所が適当だが、畑・宅地排水の良好な場所が適当だ。

名張市でも、シカ・イノシシの捕獲・駆除に報奨金を出して奨励していますが、大きな労力・費用をかけながら、殆どがノシシの捕獲・駆除に報奨金を出して奨励していますが、大きな労力・費用をかけながら、殆どがノシシの捕獲・駆除に報

用していくことが、推奨だけでは解決しません！』。

『柿の木からシメジ』今年3月頃、獣害対策で伐採した柿の木からシメジが発生しました。（写真）

『本紙、4月号で紹介しましたが、再度栽培方法を簡単に説明します。原木の伐採期は、紅葉期から翌春の休眠期頃。『玉切り』12～15日間に切り口の合つたものを2ヶ1組とする。接種の時期は2～4月頃が適

当である。

『接種』原木の木口に混

合種菌を4～5mmの厚さ

に塗り、その上に別の原

木を隙間のないようサン

ポリ等で被覆する。10

～15日で白く発菌して

くるが、発菌しない場合

は灌水して発菌を促すよ

うにする。桟木を絶対動

かないように注意。

『本伏せ』7月頃、直射

日光の当たらない林内で

伐採した柿の木からシ

カサないようになります。

『柿の木からシメジ』

原木（1組）を2～3段に積み重ね、周囲と上部をコモ・ワラ・

ソーリ等で被覆する。10

～15日で白く発菌して

くるが、発菌しない場合

は灌水して発菌を促すよ

うにする。桟木を絶対動

かないように注意。

『本伏せ』7月頃、直射

日光の当たらない林内で

伐採した柿の木からシ

カサないようになります。

『柿の木からシメジ』

原木（1組）を2～3段に積み重ね、周囲と上部をコモ・ワラ・

ソーリ等で被覆する。10

～15日で白く発菌して

くるが、発菌しない場合

は灌水して発菌を促すよ

うにする。桟木を絶対動

かないように注意。

『柿の木からシメジ』

原木（1組）を2～3段に積み重ね、周囲と上部をコモ・ワラ・

ソーリ等で被覆する。10

～15日で白く発菌して

くるが、発菌しない